



国立大学法人 東京大学
Institute for the Physics and Mathematics of the Universe
(略称：IPMU、日本語名：数物連携宇宙研究機構)

IPMUプレスリリース 2008-09-24

～世界トップレベル研究拠点IPMU～ 外国籍研究者率5割超達成 発足1年経過、他に類を見ない真の国際的研究機関に

数物連携宇宙研究機構（Institute for the Physics and Mathematics of the Universe、以下IPMU）は、平成20年10月1日をもって発足一年が経過し、専任教員数（若手研究員を含む）の5割が外国籍者となりました。現在このような研究拠点は全国において類例がなく、真の国際的機関として長足の進歩を示しています。これを受けて、現在の進捗状況、研究成果、今後の取り組みなどについて下記の通り記者会見を開催いたします。

当日の取材につきましてご参集いただけますようお願いいたします。

記

「東京大学 数物連携宇宙研究機構 発足1周年記者会見」

日時： 平成20年10月2日（木）14:00～15:00

場所： 東京大学 宇宙線研究所 6階大セミナー室（601号室）
千葉県柏市柏の葉5-1-5（別添地図参照）

内容： ゼロの状態から現在の日本に存在しない革新的な手法でグローバルな研究機関に成長したIPMUは、文部科学省 世界トップレベル研究拠点プログラム「平成19年度拠点構想進捗状況」において高い評価を得た。また、各マスコミや一般市民からも多く期待の声が寄せられている。

発足1周年を経過した平成20年10月1日をもって外国籍研究者率が5割以上になり、国際的拠点として成功しつつあることを受け、機構長の村山斉から「世界から見える研究拠点」構築への取り組み並びに概要説明を行う。

* 記者会見では外国籍の専任研究員へのインタビュー（通訳：機構長 村山斉）ほか、質疑応答を行う。

以上

問い合わせ先： 千葉県柏市柏の葉5-1-5 東京大学 数物連携宇宙研究機構

参考

- 世界トップレベル研究拠点（WPI） 平成 19 年度拠点構想進捗状況に対するコメント

『東京大学数物連携宇宙研究機構（IPMU）は卓越した「目に見える」拠点を短期間に立ち上げることに成功した。そこには、現在日本に存在しない革新的な手法がある。他の 4 拠点と違い、IPMU は現在日本に存在しないような全く新しいグローバルな研究機関に成長していくであろう。これは、全く新しく真にグローバルなものである。このような革新的要素は、拠点長のユニークな研究バックグラウンドによって実現したものである。拠点長の影響力とリーダーシップは世界的に評価されている。』

http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/toplevel/08062713/003.htm

インタビューに応じる外国籍研究者一覧（予定）

名前	職名	国籍	出身大学	専門分野
Mark Vagins	特任教授	アメリカ	Yale	実験物理学
Simeon Hellerman	特任助教	アメリカ	UC Santa Barbara	弦理論・素粒子物理学
Kai Martens	特任助教	ドイツ	Heidelberg	実験物理学
Suzanne Reffer	特任研究員	ドイツ	LMU Muenchen	理論物理学
Cosimo Bambi	特任研究員	イタリア	INFN Ferrara	理論物理学
Wei Li	特任研究員	中国	Harvard	理論物理学
Kai Wang	特任研究員	中国	Wisconsin	理論物理学
Damien Easson	特任研究員	アメリカ	Brown	理論物理学
Jing Shu	特任研究員	中国	Chicago	素粒子物理学
Mikael Pichot	特任研究員	フランス	Lyon	数学
Brian Powell	特任研究員	アメリカ	Buffalo	宇宙論

IPMU について

東京大学数物連携宇宙研究機構は文部科学省の「世界トップレベル国際研究拠点形成促進プログラム」として選定され、平成 19 年 10 月 1 日に発足した。

本機構は純粋数学から理論・実験物理学、天文学、応用数学におよぶ広範囲な研究分野の連携により「宇宙は何でできているのか、どのように始まり、その運命は何か。我々はどうして存在するのか」など人類が数千年に渡り問い続けてきた宇宙の最も根本的な謎を解明するため、分野の枠を超えて世界の頭脳が集い優れた研究成果を生み出すとともに、優秀な人材を生む場を構築し世界をリードしていく。

